

農商工が連携して旬の味覚PR

「つがる市食と産業まつり」開催



お汁粉の振る舞いに並ぶ来場者

11月22日、23日、松の館で「つがる市食と産業まつり」が開催され、多くの市民らでにぎわいました。

これは、市商工会（宮本純一会長）が農業と商工業の連携により農産物の高付加価値化や新商品開発を促進することを目的に開催したものです。

会場では、地元野菜を使った「野菜宝船」が展示されたほか、農産物や加工品の販売、農業機械を展示するコーナーなどが設けられ、農業関係者と地元企業が協力して市の魅力をPRしました。

また、市商工会が開発に力を入れている「つがるニンニク塩麹鍋」の試食やつきたての餅を使ったお汁粉の振る舞いが人気を集めていました。



地元野菜を使った「野菜宝船」

高品質農産物生産農家表彰



市長から賞状を受け取る生産農家

高品質なつがるブランド農産物を生産した農家10人を表彰。福島市長から賞状と記念品が贈られました。受賞者は以下のとおり。

氏 名	作物名	氏 名	作物名
須藤正造 さん (木造丸山)	スイカ	木村米保 さん (木造吹原)	トマト
佐藤昭夫 さん (木造林)	ネギ	新岡賢亮 さん (木造吹原)	メロン
野呂清光 さん (木造館岡)	スイカ	長内敬昭 さん (木造越水)	メロン
七戸久嗣 さん (森田町山田)	リンゴ	佐藤公雄 さん (稲垣町沼館)	トマト
葛西義勝 さん (稲垣町下繁田)	ネギ	成田君雄 さん (富苞町)	ナガイモ



200人に振る舞われた「つがるニンニク塩麹鍋」



地場産品を求める来場者



出来立ての料理の味を楽しむ子どもたち



屋外でも新鮮な地場産品が販売されました



子どもたちに大人気の段ボール迷路



会場を盛り上げたしばた保育園児の太鼓演奏



つがるちゃんに挑戦。「じゃんけん大会」



高校生チャレンジB級グルメコンテスト

木造高校生が考案した地元野菜を使った料理の人気を競うコンテスト。参加者は創意工夫された五つのメニューを試食し、好きな料理に投票しました。相撲部を中心に構成されたteamちゃんこの「木高ちゃんこ」が優勝に輝きました。



公開ラジオ番組で料理のPR



販売に挑戦する生徒



優勝を喜ぶteamちゃんこ

参加チーム(出店品目)：太巻き屋じよっぱり(しゃこちゃんのり巻き)、BISTRO JOPARI(けの汁うどん)、フードデザイン team☆S(銀杏ヶ丘しゅうまい)、ヒヒー(うまいまチリドッグ)、team ちゃんこ(木高ちゃんこ)

より良いまち目指し意見交わす

市自治会連合会が市政懇談会を開催



日頃抱えている課題などについて話し合われた市政懇談会

11月25日、つがる市自治会連合会（林嗣郎会長）主催による「市政懇談会」が松の館で開催され、自治会長ら50人が福島市長や市職員と協働のまちづくりに向けて意見を交換しました。

この懇談会は市内の自治会等が相互の親睦と連携を図りながら、市政への理解を深めることを目的に開催され、今回で5回目。林会長は「より良いまちづくりのため、建設的な意見を交わし合い、有意義な懇談会にしましょう」とあいさつしました。

特別テーマとして福島市長が「つがるブランド」におけるこれまでの取り組みを説明。今後の方針については「糖度17度以上のメロンなど厳選された『プレミアム品』の生産強化や、6次産業化を組み込んだ取り組みで消費者の支持を得ていきたい」と話しました。

その後、自治会等が日頃抱えている課題や要望などについて福島市長、葛西教育長、各部長らと話し合い、地域課題やまちづくりにおけるそれぞれの役割について理解を深めました。



質問する牛潟町内会の佐々木会長



回答する葛西教育長



あいさつを述べる市自治会連合会の林会長



より良いまちづくりについて真剣に考える出席者



人材育成について

松原町内会
会長 加 福 俊 一 氏

つがる市の未来を担う子どもたちの人材を育成する観点から小中学校での今後の人材育成の方向性はどのようになっているのか。

(回答)

教育委員会では「郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、想像力豊かで新しい時代を主体的に切り開く人づくりを目指す」ことを方針としながら、学校教育や社会教育活動を行っています。

人づくりの鍵となるのは、小中学校の基礎教育にあり、長年の地道な学習によって培われるものと考えます。学校においては基本的な知識の習得はもとより、思考力、判断力、表現力などの育成に努めています。さらに、知育・徳育・体育の調和がとれた人間性豊かな子どもたちの育成のため、道徳教育や情報教育、国際理解教育の活動も重視しながら、日々教育活動を行っています。

また、人材育成は学校だけの問題で

はなく、家庭や地域においてもそれぞれの役割があると思います。学校と家庭、地域の連携をさらに深めて、「地域の子どもは地域で育てる」ことができる環境を今後とも整えていきたいと考えています。

今現在、つがる市出身者で教育・スポーツ等において、県内、全国に名を誇れる人はどの位いるのか。

(回答)

人数の取りまとめは行っていませんが、市出身者は県内外において、それぞれの分野で活躍していると認識しています。名誉市民である第63代横綱・旭富士の伊勢ヶ濱親方。弁護士として活躍する天坂辰雄さん。県内では、元県出納長の藤川直迪さん。元県農林水産部長で現在は青い森農林振興公社理事長の鳴海勇蔵さん。県農協学園元学園長の秋田義信さん。教育では、青山学院大学教授の平田雅博さん。スポーツでは陸上競技800m走の田中匠瑛さんも国体優勝するなど活躍しています。



子どもの体力向上について 小中学生の学力向上について

林自治会
会長 竹 内 雅 彦 氏

「子どもの体力向上について」

子どもの体力向上を図るには、外で遊ぶ機会を多くすることが大事だと考えます。公園等に遊具の整備を検討してはどうでしょうか。

(回答)

教育委員会では学校の遊具や体育館、グラウンドの活用、運動部活動の奨励を図りながら子どもたちの体力づくりに関わって行きたいと考えています。公園の遊具整備も担当部局との協議を進めます。

「小中学生の学力向上について」

- (1) 4月に実施した小中学校の全国学力テストで、青森県やつがる市の成績はどの位にあるのか。
- (2) 児童生徒の学力向上にどのような取り組みをしているのか。
- (3) 東京都では土曜授業を行う公立小中学校が9割に達しており、県内では板柳町が実施しています。つがる市は土曜授業にどのような考えか。

(回答)

- (1) 青森県の成績は、全国の中で上位に位置しています。市内の小中学校は、国語、算数においては全国平均を上回っています。中学校では、平均をやや下回る結果でした。思考力を問う問題が弱い傾向にあるので、今までの以上に思考力育成に取り組めます。
- (2) 指導主事の学校訪問による指導助言、校長や教頭を対象とした学力対策会議や研修会などの実施、市独自の漢字計算ドリルや社会科副読本の活用、パソコンなどの情報機器更新、市内全校にスクールサポーター（学校教育活動支援員）の配置を行い、きめ細やかな対応にあたっています。
- (3) 現在のところ、当市においては、学力、スポーツ、生徒指導面でおおむね良好な結果であり、土曜授業の実施は考えていません。変更により児童生徒や教職員の負担が大きくなることや社会教育活動および部活動の大会などの開催に調整が必要となります。今後は社会の動向や他地区の状況などを見極めながら判断していきます。